

まちなきこり人育成講座 第2回レベルアップ研修 活動報告

平成 26 年 1 月 28 日

作成 大河内 信行

1. 活動場所 四日市市水沢町 東芝の森 及び
四日市市桜町 三重環境学習情報センター
2. 活動日 1 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日) 2 日間 天候 晴れ、曇り
3. 担当 大河内、大石
4. 参加者 1 日目 瀧口邦、瀧口朱、大河内、上林、長谷川、岡島、松永、中橋、大石、
蒲田、浅沼、澤田、市川(午前)、櫻井(午後) 14 名
会員外：岩田、岡安 2 名
2 日目 瀧口邦、瀧口朱、大河内、上林、長谷川(午前)、岡島、松永、中橋、
大石、蒲田、浅沼、澤田、市川、櫻井、清水、高崎 16 名
会員外：岩田、岡安、川根 3 名

⊗事前安全対策：準備体操、☑打ち合わせ、☑明確な指示、KY 確認、服装点検、

5. 講師 KOA 森林塾 早川清志先生、島崎洋路先生

6. 内容

①測量、測樹 (1 日目)

- ・ 4 班に分かれ、C エリアを 1 班と 2 班、D エリアを 3 班と 4 班で現地実習。(9:30~)
- ・ 先生方は、まだ到着されていないので、各班の班長の指示の下、ベテランが若手に指導しながら進めた。
- ・ 10 時過ぎ、先生方が到着され、瀧口が実習地を説明しながら案内した。
- ・ 12 時より昼食。昼食後、午前の続きの測樹を実施。13 時には各班終了し、車で移動。

②製図

- ・ 早川先生より、製図の方法について説明を受ける。
- ・ 各班、測量結果を元に関数電卓を用い、平面距離を算出。
- ・ 方眼紙に収まる様に、製図の縮尺を決め、製図を行う。縮尺の決め方については、早川先生より、測量地の一番長い辺の距離が収まるようにすると良いとのアドバイスをもらう。
- ・ 各班、悪戦苦闘しながら何度も書き直したようだった。また縮尺や製図始点の見誤りにより 1 枚の方眼紙に収まらない班も出た。
- ・ 製図、閉合誤差修正後に、各班の図面をスクリーンに映し、確認。目標の閉合誤差 1/300 以内に入った班は無かった。PC での検証の結果、測量ミスがあったと思われる班、測量ミスと製図技量不足の両方があった班が見られた。

③林分調査結果整理、施業計画立案 (2 日目)

- ・ 早川先生より、林分調査結果の纏め方について説明を受ける。(9:00~)
- ・ 各班、前日の林分調査結果を纏め、引き続き施業計画の立案を行う。
- ・ 各班、調査結果と立案内容を説明する。1 班は間伐率 60% を目標に掲げた。その他の班は、早川先生曰くオーソドックスな施業計画とのこと。1 班の 60% の間伐率については、島崎先生からちょっとやり過ぎとのコメントを頂いたが、道路沿いの桜に続くところ杉林の林縁部を列状に伐採し、そこにモミジなどを植えて、林内の間伐率を少し下げる方法もあるとフォ

ローを頂いた。

- ・各班の発表結果については、別ファイルのホワイトボード写真を参照。

④特別テーマ

- ・昼食後、島崎先生より予め選定した3つのテーマについて講演をして頂いた。

- ・要旨としては、

◇これからの林業は、環境、水、CO2 などを含めた森林業として捉え、従来の林業の当たり前も意識していく必要がある。

◇よく鋸谷さんの考えた間伐法はどうか？と聞かれるが、検証した訳ではないし、失敗したという話も聞かない。それぞれの人が研究して考えた間伐法であり、それぞれ特徴もある。その特徴を活かす形で取り入れればよい。

◇混交林については、ちゃんとした施業計画をもった実生の広葉樹を交えた資料は出ていないはず。ただ保残木マーク法が有効ではないかと考える。残したい木を選び、足りない木を近隣から移植するなどして。防災、空気浄化の意味でも針葉樹ばかりより混交林の方が良い。

☆今後の展開：

- ・引き続き測量技術、施業診断能力の向上を図る。

5. 活動写真



現地での先生たちとの昼食



プロット地での調査



樹高測定中



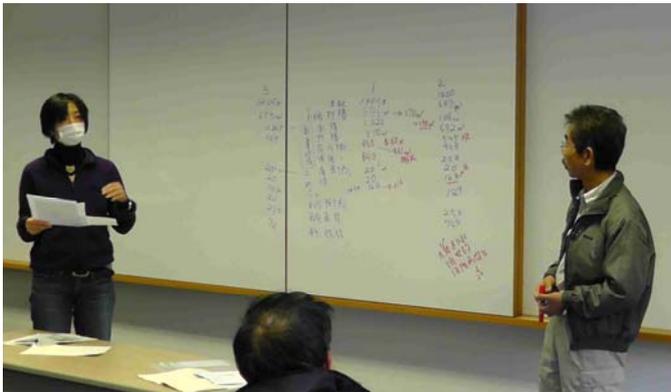
懇親会でも楽しく



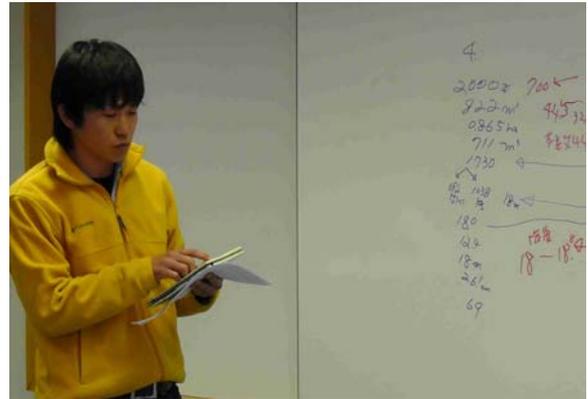
施業計画立案中



早川先生による講義



清水さんから3班の報告



若手の澤田さんからも4班の報告



島崎先生の講演

6. 反省会

2日間を通しての講座での意見を確認しました。

- ・ 内容が充実していた。本来は、ここまでの内容で講習会を実施したい。
- ・ 2日間掛けると、ここまで出来る。1日だけだと道具の扱いで終わってしまう。
- ・ 言葉の意味が判った。良く理解できた。
- ・ 全般的に進め方は良かった。
- ・ イベント準備用の手引き書の作成が必要。

以上